

和歌山県

シニア災害ボランティア in 和歌山 開催報告

いつか来る「その時」のために

平成30年9月10日(月)、和歌山県立勤

労福祉会館にて和歌山県と当協会主催によ

る「シニア災害ボランティアセミナー in 和

歌山」が開催されました。

冒頭に主催者を代表して田中和歌山県生

活部県民局長と当協会の吉田理事長が挨拶

し、続いて県危機管理局危機管理・消防課



主事の菅野主事から「南海トラフ沿いで発生する地震の状況及び県の防災減災対策や家庭・地域での取り組み」についての現状報告を頂いたのち、3Wわかやまウイメンズワッチタワー代表の市場美佐子氏による「シニア世代ができるボランティア活動について」と題した基調講演と同メンバーによるワークショップ「新聞紙を使った簡易マイトイレの作成」が行われました。

現状報告

13:40～14:40

南海トラフ沿いで発生する地震の状況及び県の防災減災対策や家庭・地域での取り組み

和歌山県危機管理局危機管理・消防課

主事 菅野 悠斗氏

今後近い将来発生すると予測される南海トラフ沿いの地震に対する調査・分析のほか、災害に対する地域の防災リーダー育成講座『紀の国防災人づくり塾』や地震体験車『ごりよう君』を使った減災教室といった地域の防災意識の向上に向けた県の防災・減災対策及び災害に備えるための各家庭あるいは各地域で取り組む方策についての報告を頂いた。

基調講演

14:50～15:20

シニア世代ができるボランティア活動について

3Wわかやまウイメンズワッチタワー代表

市場 美佐子氏

副題でもある「いつか来る『その時』のために」の関連で、実際にこれまで阪神・淡路

大震災、東日本大震災、熊本地震などの被災地に向いて活動を行った内容を紹介して頂き、災害から何を学び、何を備えていくべきかを講演された。人生100年時代の到来とも言われており、聴講者の中にはシニアと思われる方々が多く見受けられ、非常に興味深く聞かれていた。今後、地域事情に詳しい知識や経験豊富なシニアの方々のボランティア活動、支援力が大いに求められていくところであるとの講演を頂いた。

ワークショップ

15:20～15:50

新聞紙を使った簡易マイトイレの作成

3Wわかやまウイメンズワッチタワーメンバー被災地で一番苦勞する事は、トイレが使えない状況になった場合と言われている。設置されるまでが勝負で、今回メンバーの方と参加者の皆さんと一緒に洋式及び和式の簡易トイレを新聞紙を使って作成し、参加者からの関心を集めた。



市場 美佐子氏

阪神・淡路大震災を機に防災活動に参加。防災士の資格を取得し、女性の視点から防災・減災の啓発をすすめる「3Wわかやまウイメンズワッチタワー」を立ち上げ、県内各地で講座を開催している。